



令和4年度小林市立南小学校
校長室だより [R5.2.22(水)]

希望の子

われらがまなびや みなみこう

校長 児玉善彦



本日は今年度最後の参観日でした。ご多用のところ多数来校いただきありがとうございました。本年度の授業日数は、6年生が19日。在校生は20日となりました。ラストスパートです。

☆ 2月 3日(金) ～「家族の作文等表彰式」

小林中央公民館で開催されました。入賞者については前回の通信でお知らせしましたが、最優秀賞の児童生徒には表彰式への出席が求められました。本校からは2年生の荒殿愛菜さんがご家族と一緒に参加してくれました。▼かわいらしい作文の全文を裏面に掲載していますのでご覧ください。



☆ 2月 5日(日) ～「小林市PTA研究大会」

小林市文化会館で開催されました。研究発表や講演のほか、PTA活動に尽力いただいた皆さんの表彰も行われました。南小関連は以下の皆さんです。
奥 葉子さん、杉場 恭世さん、橋満 香織さん
これまでものお力添えに対し、改めましてお礼申し上げます。▼また、式中では、市立図書館読書感想文感想画コンクール読書感想文の部で市長賞を獲得した児童生徒による受賞作品の朗読がありました。12月の通信でお知らせしたとおり市長賞を獲得した、本校5年生蘭田晴人君も立派に発表してくれました。▼素晴らしい内容の感想文を裏面に全文掲載しますのでご覧ください。



☆ 2月 7日(火) ～「学校運営協議会」

5名の委員さんに来校いただきました。学校の状況等について説明した後に、各学級の授業も参観いただきました。これから、今年度一年間の学校運営に関する評価をしていただくことになっています。



☆ 2月14日(火) ～「図書館見学」

愛知県にある淑徳大学から3名の皆さんが来校されました。学校図書館協力員の橋口先生をはじめ、図書委員会の児童の取組についてたくさんほめていただきました。また、この日は昼休み時間の読み聞

かせの日でしたので、読み聞かせボランティアの皆さんとも直接お話しいただきました。何かしら研究の参考にできれば幸いです。

☆ 2月15日(水) ～「薬物乱用防止教室」

小林警察署から講師をお招きして、6年生を対象に実施しました。情報モラルについても実例に触れながら説明いただきました。将来にわたって危険から身を守るために必要な知識を得る貴重な機会となりました。(講師の先生は南小の卒業生でした!)



☆ 2月15日(水) ～「機器の入れ換え」

教師用のパソコンがすべて新しくなり、印刷関連の機器(複合機)も新しくなりました。印刷関連機器は台数が減りましたが、処理スピードその他とても性能がよく、職員にも好評です。

【児童の活躍】

《税に関する絵はがきコンクール》

小林地区租税教育推進協議会長賞(※小林法人会主催)

6年 井手口 妃由(ひより)さん

奨励賞

6年 永野 悠羽(ゆうわ)君

6年 後藤 はるの さん

※ 西諸各市町から507点もの応募があったそうです。

《第66回西日本読書感想画コンクール》

努力校賞(※西日本新聞社・九州・山口各県図書館協議会)

小林市立南小学校

※ 賞状と盾が届きました。まさに子ども達の努力の賜物です。

《エコニコみやざき作文コンクール》

優秀賞(※宮崎日日新聞社主催)

1年 津郷 健伸(けんしん)君

※ 「エコ活動 できることからはじめよう」をテーマに、宮崎日日新聞社が募集しました。2/19(日)の新聞に、結果と健伸君の作品関連の記事が載りました。<↓同記事より>

「小林市・南小学校1年の津郷健伸さんは、おじいちゃん、おばあちゃん、妹と4人でゴミを拾い、その多さに驚きました。レジ袋が海に飛ばされ、それを食べた魚が死んでしまうことを心配し、買い物にはエコバッグを持参します。『だいすきなまちで、ごみ拾いとエコバッグをつづけていきます』と誓いました。」

《第40回宮崎県柔道選手権大会》

優勝(小学生女子の部)(※宮崎県柔道連盟等主催)

6年 平野 心結(みゆ)さん

※ 2/14(火)の宮崎日日新聞に、写真付きのインタビュー記事が大きく掲載されていました。

年代最強の地位を確立しましたね。すごい!

☆裏面もあります!

《第68回剣法発祥鶴戸山顕彰剣道大会》

☞ 3位（小学5年生の部）（※鶴戸神宮他主催）

5年 瀬口 柚姫（ゆめ）さん

※ 屋外で行われる伝統と格ある大会です。おめでとぅ！

《宮崎日日新聞への掲載》

児童の日記が「窓」の欄に掲載されましたので紹介します。▼作品は児童玄関に掲示しています。

☞ 2月17日（金）

「反省生かし勝つ」

3年1組 立元 幹大（かんだい）君

テニスの団体戦がありました。3し合中、1し合勝ちました。でもぼくは、3し合とも負けてしまいました。くやしかったです。勝つために、夜ごはんは、かつ丼を食べてきました。▼いつもは1回は勝つのですが、「なぜ、今回は勝てなかったのだろう」と思っていたら、お父さんが「四つやっていないことがあったよ」と勝てなかった理由を話してくれました。▼一つ目は、左足の横でうっていなかったことで、良いボールがとばなかったということでした。二つ目は、かまへのじゅんぴを早くしていなかったことでした。ひざをやわらかくしていないと、ボールにおいつきません。三つめは、集中することです。サーブをうつときに、右に左に行きすぎました。四つ目は、声を出していないことです。▼お父さんに言われたことは、自分でもなっとくできることでした。もうしばらくすると、日南市でだれとでも対戦できるし合があります。今回、反省した四つのことをしっかりやって、大人にも勝てるように強くなりたいです。▼また、負けても、他の人のプレーを見て、自分のことを見直して、もっと強くなりた

☆ 前号の掲載内容（学年、お名前、記録）に誤りがありました。正しくは以下のとおりです。大変失礼しました。

《第46回新春山麓ロードレース大会》

☞ 第3位（小学校低学年：1～3年：女子の部）

2年 石橋 沙和（さわ）さん

… 記録 4分49秒／1 km

《作品介绍》

☞ 市立図書館読書感想文感想画コンクール
読書感想文の部「市長賞」受賞作品

「時間の大切さ」

5年 蘭田 晴人 君

もうすぐ11歳になるが、ぼくもちょうど10歳である。10歳のぼくに日野原重明先生は何を話してくれるのだろうと思い、本を読んでみた。この本は95歳の医師、日野原重明先生が10歳の子ども達へ書いた本である。まず自己紹介が書いてあった。95歳、聖路加国際病院の現役の医師で看護大学や病院の経営、講演のために、全国や外国に行って元気に活動していることにぼくはおどろいた。▼ぼくは今まで寿命のことについてあまり考えたことはなかった。日野原先生は寿命のことをぼく達子どもにも分かりやすい言葉で

伝えてくれた。日野原先生は「寿命とは、わたしたちにあたえられた時間のことです。その時間はだれにでも同じように流れています。でもその感じ方は、人それぞれです。」と言っている。この言葉に、ぼくはとても納得した。ぼくは好きなゲームをしているときは時間がたつのがあっという間だけれど、勉強をしている時は同じ時間でも長く感じてしまうことがあるからだ。時間はみんなに平等にあたえられている。今までだらだらと「あと5分、あと5分。」とゲームの時間をばししていたこと、「あとでやる。」と何でも先のばしにしていた自分。何だかもったいないなと思った。日野原先生が言うように時間の中身を最終的に決めているのは自分自身だということ、寿命というのは生きることの費やすことのできる時間ということがよく分かった。ぼくは一瞬一瞬の時間を意識して大事にし、精一杯生きた時間を使いたいと思った。▼そして、日野原先生の「ほかの人のためにきみはどれだけの時間を使っていますか。」という質問にぼくは、はっとした。自分が楽しいだけを考えていないか、自分のことだけしかしてないのではないか。自分の時間を他の人のために使うことに努力している日野原先生。父は毎日人のために一生けん命働き、母は、家族のために、ぼく達を育てるために自分の時間をたくさん使ってくれている。すごいなあと思ったし、とてもありがたいことだと思う。ぼくもまずは、小さなことでも人のために自分ができることは何かを考えていきたい。学校で困っている友達がいたら、自分の時間がなくなっても助けたい。家でも家族のためにたくさんお手伝いをしたい。寿命というぼく達にあたえられた時間を自分のためだけに使うのではなく、ほかの人のためにも使う人間になりたいと思う。▼ぼくは「十歳のきみへ」というすばらしい本に出会えた。10歳で亡くなられた日野原重明先生に会ってみたいなあ。生きていくうえでたくさん大切なことを教えてくれた日野原重明先生に感謝したい。

☞ 家族の作文コンクール
小学3年の部「最優秀賞」受賞作品

「わたしのかわいい妹」

3年 荒殿 愛菜 さん

「おぎゃー。」わたしの、かわいい妹の声がありました。かんごしさんによばれて、すぐに妹の所に行きました。▼「ねえねだよ。」話しかけたら、なみだがでてきました。お母さんもないていました。でも、お父さんは、ないていませんでした。▼次の日の朝、わたしは、早く妹に会いたくて、早おきました。そして、お母さんと一しょに、妹をむかえに行きました。でも、お父さんは、ねていました。▼へやに行って、さっそくだっこしました。「かわいい、かわいい。」なんとも言ってしまいました。妹は、すごくあたたかかったです。わたしの心も、ぽかぽかしてきました。「すっつと、一しょだよ、わたしのかわいい妹。」

☞ 学校のホームページを随時更新していますので、よろしければ、時々覗いてみてください。(^o^)/

☞ 児童の「活躍」や地域で見かけた「善行」等の情報がありましたら是非連絡ください。《☎23-3520》

《余談～校長児玉の帰宅後の話》

縁あって、共同通信社から原稿の執筆依頼があり、夜な夜な作業等していました。内容は「弁当の日」です。同社が展開している「『弁当の日』応援プロジェクト」の一環として、宮崎県の取組について紹介したいという依頼でした。ちなみに宮崎県は平成22年に「弁当の日」の推進に着手して以来、ずっと学校での実施率が群を抜いて高く、全国ナンバーワンを維持し続けています。原稿の要点が抜粋され、Q&A形式にして同プロジェクトのHPに公開されています。「より広く発信を…」との関係者の意向に鑑み、ここでも紹介させていただきます。ご覧いただけますと幸いです。

※ 『『弁当の日』応援プロジェクト』を検索→スクロールすると『『弁当の日』モデル自治体 宮崎県を掲載しました』と出てきます。